

平成 28 年度内閣府青年国際交流事業（実施済事業）から見えた課題

団長会議での指摘事項

研修プログラム（事前・出発前・帰国後の研修）

- ・ 研修講師の専門性と技量の確保（議論の進め方、議論テーマの基礎知識の講義等）【育】
- ・ ディスカッション研修の目的の明確化（議論か相互理解か）【育】
- ・ 講義及び一日の終わりに、振り返りの時間を作るべき【育、韓】
- ・ 日本の教育・文化などをテーマに日本語で議論する機会を設け、日本の制度の理解を深めておくべき【韓】
- ・ 団のチーム作りや人間関係構築は事前にどれほど必要か、またどのようなプログラムが有効か【全事業】
- ・ 事前研修前の参加青年に、自己紹介シート、研修テーマ等の課題提出を課す。事務局で取りまとめたものを団メンバーに配付して共有。事前研修時の自己紹介等の時間枠の有効活用。

現行の事前研修では以下の時間数を充てて団別研修をさせている。

団別研修では、自己紹介、個人の目標設定と共有、団の目標設定、団の中の役割分担、日本紹介の内容決定、団ルールの検討等を行っている。

育成：18 時間 00 分

日韓：17 時間 00 分

日中：20 時間 45 分

東ア：23 時間 00 分

訪問先プログラム（ホームステイ含む）

- ・ ホームステイの安全確保【育、韓、東ア】
- ・ ホームステイの質の確保【育、韓、東ア】
- ・ 訪問先で交流をより深めるための事前準備、情報提供はどのようなものが
必要か。【育、韓、中、東ア】
- ・ 到着後に加え、帰国前にも在外公館員等との意見交換機会が望ましい
【コ】

日程・その他

- ・ 派遣日程が長い。幅広い青年の参加を促すには見直しも必要か。【育】
全事業同様。
- ・ 全体の日程がタイトかつ拘束される期間が長い【韓】 全事業同様。

事務方が認識している課題研修プログラム（事前研修、出発前研修、帰国後研修）

- ・ 研修準備において、青年が自主的に学習できる情報提供が必要【育、韓】
- ・ 青年ごとに受けるべき研修やそのレベルが異なる【育、韓】
- ・ 試験結果通知から事前研修開始までの準備期間が短い（2週間）【コ】
- ・ ディスカッションテーマの精査【東ア】
- ・ 各研修の目指すべきゴールの明確化（クラブ活動の見直しなど）【東ア】

訪問先プログラム

- ・ 訪問を終えた後、海外と比較しての日本を考える機会が望ましい【韓】
- ・ プログラム内容について受入国と定期的に協議する機会が望ましい【中】
- ・ 受入国にホームステイ家庭の数・質の十分な確保の依頼【東ア】

日程・その他

- ・ 日程がハードで振り返りの時間がない【韓、東ア】
- ・ 団長が選考試験に同席し、青年選考に専門的な視点を導入してはどうか【コ】
- ・ 事業充実のための内閣府と外国政府機関等との関係強化【コ】

【育】：国際青年育成交流

【韓】：日韓青年親善交流

【中】：日中青年親善交流

【東ア】：東南アジア青年の船

【コ】：地域コアリーダープログラム